

滋賀県がん診療連携協議会・第2回相談支援部会 結果概要

日 時：平成 22 年 11 月 11 日（木）午後 5 時～

場 所：県立成人病センター新館 11F 会議室

出席者：【部会長】成人病センター 鈴木副院長

【副部会長】大津赤十字病院 芥田部長、市立長浜病院 伏木部長

【部会員】滋賀医大病院 服部副看護師長、大津赤十字病院がん相談支援センター 山本係長、
成人病センターがん相談支援センター 三輪主幹、公立甲賀病院 柴田(代理)、
彦根市立病院がん相談支援センター 教野、
市立長浜病院がん相談支援センター 入江副センター長、滋賀県薬剤師会 吉岡、
滋賀県がん患者団体連絡協議会 菊井会長、滋賀県がん患者団体連絡協議会 末松副会長、
滋賀県健康福祉部健康推進課 加賀爪副主幹

【事務局】成人病センター地域医療サービス室 田中、経営企画室 沼波

議題

1 がん相談Q & Aの追加、修正文案の検討

（事務局）

市立長浜病院さんから、「治療費」の項目で、介護保険の部分を追加していただきました。項目もブロック単位にまとめていただき、非常に見やすい形にしております。この治療費の部分についてご意見等ございましたら賜りたいと思います。

「がんの治療」3(4)で放射線療法がございますが、これは昨年度第3回部会において、放射線療法の項目を追加しようという話がありましたので、どういった項目を追加するか、検討したいと思います。合わせて、同じ3(6)免疫療法の項目についても項目の追加を検討いただきたいと思います。6「抗がん剤」の項目ですが、ここに追加できるような項目を検討いただけないかと事務局で考えています。今年度がん相談のQ&Aについては、充実していこうという考え方がありますので、各部会の構成団体の皆様方から、1項目以上の追加をご検討いただきたいと思います。

来年1月20日までに追加項目を事務局までいただき、第3回部会で最終の調整させていただきます。

（鈴木部会長）

まず市立長浜病院さんからの修正案ですが、非常にわかりやすい。特に不備等なければ、これで決定したいと思います。追加項目に関しまして、「がんの治療」のうちの放射線療法については、この部会は放射線に詳しい方ばかりおられますので、共同作業で文を起こしていただければありがたいです。

（市立長浜病院）

化学療法が何ページかにわたっているのに、放射線のところがほとんどないのは、アンバランスかと思うことが事の発端でした。同じ理由で免疫療法も。化学療法に負けず劣らずぐらいと思ったが、別に張り合う必要もない。抗がん剤も項目追加も聞きましたが、バランスを考えたらいいと思う。

（鈴木部会長）

放射線療法の重要さは、日本でもやっとみなさんわかってきたというところですよ。機器もだんだん更新されていますので、より質の高い放射線治療を県民の皆様へ供給できるのではないかと思います。そのへんの思いの丈を芥田先生、伏木先生に書いていただきたいと思います。よろしくお願いします。

免疫療法に関しては醍醐先生が滋賀医科大学に着任され、県民向けの公開講座等もされています。大学として強みがありますので、ぜひもう少し詳しく書いていただければというのが私の気持ちで、醍醐先生にお伝え願えればと思います。県内で免疫療法をやっているのは、滋賀医科大学しかないでしょう。

(市立長浜病院)

どこの病院がやっているかというのは、把握しておきたい。

(鈴木部会長)

そういう情報も兼ねて、文書にしなくてもいいですが教えていただくとありがたい。そういったところで手厚く文を起こしてください。化学療法に関しては、薬剤師会さんに充実化をお願いします。

(市立長浜病院)

Q&A がどんどん充実していくのは何よりいいことですが、どのくらい実際にアクセスがあるのか把握はしていただけていますか。全く見てもらえてないと、その労力も無駄遣いになる。

(協議会事務局)

ホームページのアクセス件数は把握しようと思えば把握できるが、今現在、延べ何件かというのはわかりません。アップされた直後に一気にアクセスがあったことは記憶しています。各病院さんもリンク先を張り付けていただいたということもあり、結構見ていただいている。

(鈴木部会長)

次回にざっとした数字を出しましょうか。

(協議会事務局)

来年度くらいに冊子のような形にできればと思っています。お金との相談にはなりますが。

患者会さんには、あけぼの滋賀のホームページにリンク先の設定をお願いします。

(鈴木部会長)

PDF 化して、別においておくといいですね。それぞれの項目のところは、文ばかりなので何か絵を入れるとか写真を入れるとか、そういうのも工夫してもいいですね。

(協議会事務局)

この際、皆さん担当分野についてイラスト等いただけたらなおありがたい。

(鈴木部会長)

ただ著作権だけは、十分に注意していただいて。追加項目に関する締めはいつごろにしますか。

(事務局)

1月20日までいただいて、事前調整が必要なら皆さま方にお送りいただき、第3回部会で調整という形でいかがでしょうか。

(鈴木部会長)

各部会構成団体から1項目以上の追加をお願いします。一方、削除しないといけないものも今後出てくると思います。資金的に余裕があれば、今後パンフを作る等そういう作業をできればと思います。その時のことを考えて、漫画や挿絵、イラストがあればいいかなと思います。

2 がん相談支援センターの相談員の資質向上について

(事務局)

がん相談支援センターの相談員の資質向上ということで、第1回部会において皆様方に相談事例検討会の開催をしてはどうかと提案させていただきました。

5項目の協議事項を各病院から提出いただきました。今年度事例検討会ということで12月または1月に開催させていただきたい。土日は結構業務が集中しているという背景もあるので、原則平日午後で考えています。ご意見ありましたら頂戴したいと思います。

(鈴木部会長)

当初秋と申ししていましたが、年明けということでやりたいと思います。方式をスクール形式、机を並べて研修方式にするか、会議方式にするか、そういった部分もありますが、ご意見ありますか。

(事務局)

ファシリテーターの養成研修を終わっている成人病センターの吉田副参事に、検討会の進行的な役割を担ってもらおうと考えています。一度やってみた上で、やはり研修会方式にしたほうがいいのであれば、もう少しテーマを絞りこんで、深く皆様方で検討していったらどうかという助言もいただいていますので、これをベースに検討会方式でさせていただきたいと思います。

(鈴木部会長)

だいたい形は見えたとと思いますが、今のご提案でまずやってみるということできましようか。反省点等でできましたら、修正していくということで。

(県健康推進課)

対象はどういった方か。

(事務局)

対象はがん相談支援センターの相談員です。事務局では平日開催を考えていますが、平日午後ということではいかがでしょうか。研修会方式でやるのであれば、例えば土曜日の午後に半日かけてやるのがいいと思うのですが、平日ですと、遠方からお越しいただく場合、時間的な制約もあるので、平日の午後は例えば2時とか3時とかそういう時間帯から始めて夕方くらいまでという想定をしています。

(滋賀医科大学附属病院)

土曜日もたくさん他の研修があるので、平日であれば業務の一環として出て来やすいと思う。

(県健康推進課)

支援病院も相談支援を行うということも指定要件のひとつになっています。軌道に乗ってきたら、がん相談支援センターの相談員+がん相談全般の資質の向上も検討いただけるとありがたい。

(事務局)

支援病院に声掛けするのは可能かと思います。

(鈴木部会長)

初回はトライアルということで、狭い範囲で始める計画でした。初回からお呼びするのがいいのか。

(滋賀県薬剤師会)

年1回であるなら、ある程度広げておいたほうがいいような気もします。

(大津赤十字病院)

新しくこれからがん相談支援センターをするところは、ノウハウを聞きたい。相談内容の対応もとても大事だけど、情報収集の整理の仕方等の準備に少し時間があると思う。

(事務局)

ずっと成人病センターが相談員検討会を続けていくというのではなくて、県内で輪番制のような形でやっていただけると、年に複数回の開催も可能かと思います。

(鈴木部会長)

むしろそちらのほうが、行ったときに相談支援センターを見学できるし、ためになるところもある。そういったことも含めて、輪番でできるといいかなとも思います。年1回と言わず、数回程度。

(滋賀県薬剤師会)

回数が多くなってくるとなると、広げるとしんどくなるのでは。

(鈴木部会長)

最初は相談員だけが集まって、今後の形式とか人選とか知恵を出しあうということはどうでしょう。

(協議会事務局)

今回はあくまでもトライアルということで。来年度何回やるかも含めて、次の第3回部会で23年度は輪番制で複数回やるのか1回にするのか、対象をどうするのか決めてはどうでしょうか。

(鈴木部会長)

よろしいでしょうか。5 題に關しまして、年明けに成人病センターで午後 2 時頃から相談員の方を対象にして、吉田副参事がファシリテーターとして、検討方式でトライアルという位置づけで行う。そこで出された意見を元に、第 3 回部会で次年度以降の計画を決定することにしたいと思います。

3 セカンドオピニオン提示体制一覧表の修正等について

(事務局)

セカンドオピニオンの対応状況の一覧表がございます。各病院のホームページに載せていただいているものを本日お付けしております。今後変更等がございましたら、事務局にご連絡ください。

(鈴木部会長)

今後、修正点等が出れば事務局までお願いします。

4 その他

患者必携の普及に向けた拠点病院での対応について

(協議会事務局)

10 月 8 日に都道府県の拠点病院を集めた会議があり、国立がん研究センターから患者必携について説明がありました。今後、患者必携フル合体版、患者必携(冊子 A + B) + 該当する冊子 D、がん患者さんのしおりが作られるとのこと。

今後の展開案として、を 8 万部印刷し、医療機関、行政窓口配布する。を書店販売する。を 80 万部印刷し、医療機関、行政窓口配布し、により相談支援センターの活用、必携情報の入手方法が紹介される。拠点病院についてはを用いた説明会を計画している、ということです。また、患者必携サポートセンターが 9 月に立ち上げられ、ここが活用支援をするとのこと。

(鈴木部会長)

具体的なことは、相談支援センターに連絡があると思います。

インターネットの利用の有無に関わらず、得られる情報に差が生じないようにする必要があることから、印刷物をまず出したいとありますが、確かにうちの Q&A は電子媒体でしか見れないので、そういう環境にない、IT 条件の悪い方々もたくさんおられますので、何とかパンフレットにしたい。

(市立長浜病院)

滋賀県の地域情報について、何か話は進んでいるのか。

(鈴木部会長)

統計的なことは、県健康推進課のご助力のいるところ。全国的なものは愛知県がんセンターがかなりやっていますが、滋賀県独自のというのは、私はまだみたことがない。よろしくお願いします。

(がん患者団体連絡協議会)

がん患者団体連絡協議会ですが、今年度もピアサポーター養成講座を終了して、10 月 25 日に去年度と今年度の交流をしまして、現在のがん患者サロンの問題点等も浮き彫りにして、講師の先生方にも回答をいただいて、11 月から 32 名ががん患者サロンのピアサポーターとして活動を始めています。

ピアサポーターさんの体験を聞いていると、とてもすごい体験をされていて、体験を基に人間的にも、素晴らしい体験をたくさん持っていらっしゃる。それをサロンに来てない方にも読んでいただければ、がんと向き合うためのひとつの勇気の元になるのではないかとということで、ぜひ取り組みたいと思って、滋賀県版がん体験バンクを創設することになりました。協力機関には協力をお願いします。

もう一点、前回の会議の時に、がん患者サロンとピアサポーターの位置づけの案を皆さんにも検討いただきました。もう少し検討させてください。推進計画の文言は変えることができますか。

(県健康推進課)

今年は中間評価の年ですので、現在の進捗状況ですとか課題を出していただいて、変更するという
ことであれば大丈夫です。

(がん患者団体連絡協議会)

その際は病院に許可を取るということになる。そういうのはどうしたらよいか。

(県健康推進課)

がん計画そのものの進捗状況とかその管理はがん対策推進協議会なので、11月30日のがん対策推進
協議会の中で検討いただいて。具体的にどうしていくかというのを会議の中で詰めるのは、関係者ばか
りではないので難しいと思いますので、ある程度話し合いの結果、こうするという事になったという
あたりもある程度言っていた方がいいと思う。

(鈴木部会長)

がん対策推進協議会で決定すべき事項ですね。

(がん患者団体連絡協議会)

がんサミットで、滋賀県のピアサポーターの講座はとて素晴らしいと褒められました。今は協議会が認定
してピアサポーターの修了書を出している。奈良県や山梨県は県が出しているの、そうした方が
良いという話が出た。公募にした方がいいという話も出ていた。ピアサポーターの養成講座ももう少し
検討しないといけないと思って帰ってきました。

(県健康推進課)

誰が修了証書をどうするかという話は、以前にも話をしたと思います。

(がん患者団体連絡協議会)

国の予算の中で、包括がん相談支援センターを作る予算がおりているという話が出ていて、それが全
国の都道府県の中で、やりますというところとやらないというところとあるようです。私は県にそう
いうものができるのは理想ですが、やはり今の病院の中の相談支援センターがもっと広くがん患者さん
に周知されたり、もっと充実したものになったら、より身近になると思っています。

(鈴木部会長)

この県の基本計画を大事にして、滋賀県独自の考え方で進めていくことも必要ですね。

(がん患者団体連絡協議会)

ピアサポーター講座は、褒められました。がん体験バンクは初めてですが、充実したものにしたい。

(市立長浜病院)

確かに我々がいくら説明するより、実際に同じような病気で同じような治療を受けられた方の体験談
はものすごく力になる。治療を受けて5年目や40年目というのを聞くと、自分もがんばれると思え
ると聞きますし、その実体験が見える形にするのは、意味があると思う。ただ、気をつけないといけ
ないのは個人情報。上手に匿名化できるような形が望ましい。人によれば、個人名をぜひ出したい
という方もいらっしゃいますが、その辺のよし悪しもあると思います。

(がん患者団体連絡協議会)

有名人の話や東京で受けた人の話を読んでも、やはり身近じゃない。滋賀県でこんなに頑張っている
人がいるんだということを読んでいただければ、滋賀県のがん患者さんが頑張ろうという気持ちにな
るかなと思うので、滋賀県に限った感じでやりたい。

(市立長浜病院)

それこそ、この地域でがん治療を受けて大丈夫だよ、という意味の書面にもなるということですよ。

(がん患者団体連絡協議会)

なので、滋賀県版を私たちはやりたくて。全国はやはり有名な人は特別だなと。

(鈴木部会長)

滋賀県は琵琶湖がどんとあるので、自然などの特性も踏まえたものを提供したい。

(がん患者団体連絡協議会)

ぜひ皆様にも協力していただいて、いろいろな部位とか年齢や家族の体験も載せたいと思っている。

(市立長浜病院)

文章を書くことに慣れていない方が多いので、むしろインタビュー形式で聞き取ってくれたほうがありがたいとおっしゃる場合があります。何十ページも書く人や2ページくらいで済ます人などいろいろなので、ある程度統一性があつたほうがいいのかと思う。

(がん患者団体連絡協議会)

方法論はもう少し考えます。ピアサポーター養成講座の時に、宿題みたいな形で皆さんに書いてもらったら、結構書いてくださったので、まずはピアサポーターさんをお願いして始めていきたい。

(市立長浜病院)

ピアサポーターの養成講座は、まだまだ続くと思っていていいのですか。

(がん患者団体連絡協議会)

推進計画に医療圏2人以上となっていますが、やっているのと、月1回のその日が治療日にあつたりとか体調が悪いとかする。サロンには3人は必要なもので、もう少し続けていきたい。今年フォローアップというのをやって、がん患者サロンを先生に回ってもらってやつたりした。難しいこともあるので、先生にもサポートいただきたいなと思いました。

(市立長浜病院)

支援病院のセカンドオピニオン提示体制の情報は、我々からもらった方がいいのか、県としてまとめて支援病院の情報をいただきたいと言つたほうがいいのか、どういう風にさせていただいたらいいのか。

(協議会事務局)

こちらとして考えているのは、圏域内のことは、拠点病院さんをお願いしたいと思っています。可能であれば、拠点病院さんが圏域内にあるがん診療を持つ病院にセカンドオピニオンの対応状況を聞いていただき、それを他の拠点病院にも流していただいたら、みんなが情報共有できると思います。

(鈴木部会長)

二次医療圏は、拠点病院がお世話役をしていますからね。

(市立長浜病院)

がん体験バンクの協力機関(案)のところ、滋賀県放射線技師会等が挙がっていますが、放射線治療の連絡協議会があります。がん治療を頑張っている者の集まりなので、どちらかという当事者たちが積極的に関わっている団体として名を連ねてもいいかと思つます。

(鈴木部会長)

臨床心理士会も入っていただいたらいいかもしれませんね。

最後に、インフォームドコンセントに関する実態調査の進捗状況はどうですか。

(県健康推進課)

今回、議題にも出せていないのは、具体的な動きはまだしていないということもあります。堀先生にも打診はして相談させていただいているのですが、またある方面から、滋賀医科大学付属病院で、研究をしようという動きがあるというのを耳に入れていて、その動きと併せてどうするか相談させていただいている最中で、具体的には委員にお願いした方とはお話し合いはできていない状況です。

インフォームドコンセントの調査は、予算要求しておりますので、来年度何とか間に合う感じです。

(鈴木部会長)

ではよろしいでしょうか。どうもありがとうございました。